

女性後継者として

イイダ園芸

飯田久美子

私は千葉県の北東部にある香取郡東庄町でガーベラと小菊の切り花生産をしています。ここは東京へは2時間、成田空港へは約1時間という便利な立地です。すぐ隣には銚子市があり、その先は太平洋です。

経営は私と父の二人で行っています。他に祖母がガーベラの出荷調整と少量の家庭菜園の管理を行い、パートを1人(ガーベラの出荷時のみ)雇用しています。

母は私が小学6年生の時に突然の病気で37歳という若さで亡くなりました。毎日元気に働き、ご飯などを作ってくれた母が、まさかいなくなるとは思ってもしなかったのです。家族全員本当にショックでした。それからは祖母が母の代わりとなって家事や仕事を行ってくれ、私たちもできるだけの手伝いをしていました。パートナーを喪った父も精神的、体力的にとてもつらかったはずですが、私たち家族のために毎日必死に働いていたように思います。

私は次女で、本来なら姉が後を継ぐことになっていましたが、急な結婚により嫁いでしまいました。いろいろ悩みましたが、父の負担を少しでも軽くするために、私が継ごうと決意しました。

我が家の切花栽培は祖父が昭和40年頃始めました。当時は30坪の温室で枝物(レンギョウ、ハナモモ、柳類等)の促成栽培と小菊を生産していましたが、平成元年に東総用水の畑地かんがい施設整備事業が始まったのを機に、両親が150坪のパイプハウスでガーベラの試作を始めました。少しずつ規模を広げ、現在は730坪の鉄骨ハウス3棟でガーベラの切花栽培を、65aの露地で小菊、約60坪のパイプハウスでイタリアンスカスを生産しています。水田7反は貸し付けています。

ガーベラ栽培について

我が家では2カ年据置周年の土耕栽培で、年間約40万本出荷し、現在大輪2品種、小輪17品種を栽培しています。

毎年、施設面積の半分を改植するのですが、ガーベラ栽培が始まってから20年経っていると、連作障害によると思われる生育障害が発生してきます。具体的には花茎の伸長不良や株枯れ(ネコブセンチュウ等)などです。当園では、改植前の土壌へ牛糞堆肥や窒素やカリを施用しており、結果として若干リン酸過剰、カリ過剰がみられます。

ガーベラ栽培では市場のニーズに応えられるように少量多品種生産が主流であり、1棟の施設に数品種栽培されています。また、栽培期間が長いことから計画的に湛水による除塩や休閑をすることが困難であり、これらが連作障害を引き起こす原因と考えられています。

また、ネコブセンチュウや株枯れが2年目になると多発し、収量を減少させるケースが多くなります。普及所の指導により、土壌改良、土壌消毒、発生箇所と思われる株へのアオバの灌注などの対策を講じていますが、いまだ解決には至っていません。



露地園場とハウス全景



ガーベラの収穫作業

ガーベラは害虫による加害も多く、かつてはアブラムシやハダニ類の防除に苦慮したそうですが、最近ではマメハモグリバエ、オンシツコナジラミ、タバココナジラミ、アザミウマの被害が深刻となっています。

これらの害虫は併発することが多く、有効な防除薬剤も少ないことから、大きな被害を受けることがあります。農業に頼る防除ばかりでなく、総合的な防除体系

の確立も重要な課題です。

以前、とある産地に視察に行った時に、職員の方がこうおっしゃっていました。「これからは“どうやって病害虫を抑えるか”から“病害虫を発生させない為にはどうするか”といった考え方の大転換が必要となる。その第一歩が土壌管理となる」と話して下さいました。細かいことまではまだ理解できなかったものの、これからの参考にしていきたいです。

環境のためにも薬剤を使わない土壌還元消毒に注目していますが、消毒日数がかかり改植時期がずれてしまうことなどから、なかなか実行までたどりつけません。しかし、土のリフレッシュのためにも今後挑戦してみたい課題のひとつです。



ガーベラの出荷調整（写真奥が祖母）

無花粉ガーベラデビュー

最近、カビの発生原因となる花粉が出ないガーベラが市場にデビューしました。“かわいらしい”と若い女性から人気の高いガーベラの販売は、毎年気温が高くな

る5～9月ぐらいまでは品質の問題で相場が苦戦します。今年は相次ぐ食品値上げなどで、切花への消費者の購買意欲が減退していたこともあり、夏場の相場はかなり落ち込みました。

この無花粉ガーベラは、契約した産地でしか栽培することができず、一般生産者にはまだ栽培する権利はありません。しかし、これを機に少しでも消費者の購買意欲がでてくれたら生産者として嬉しいです。私個人としては、通常の花粉の出るタイプでも、可愛い品種はたくさんあるので、是非皆様にもお勧めします！

8～9月は農繁期！

夏は盆、彼岸に小菊の出荷が最盛期となります。約15万本生産しています。加えて改植したガーベラも咲いてくるので、とても忙しい時期になります。両方とも私と父の二人で収穫しているので、体力的には現在の栽培面積で精一杯です。また、今年の春過ぎから祖父が介護を必要とする体になってしまいました。そのため、家族の皆が眠れなくなったり、ストレスが溜まって

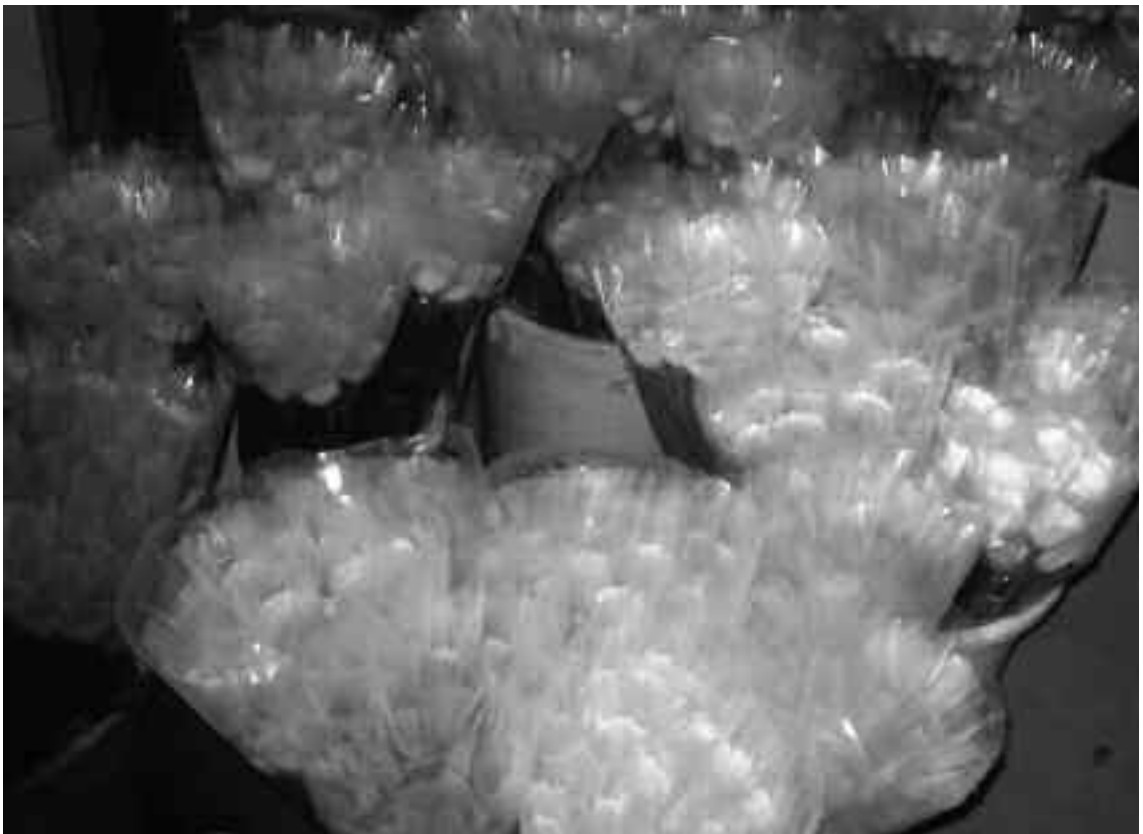
体調を崩したりした時もありました。親戚やケアマネジャーと相談し、皆で前向きに対処した結果、祖父の体調も良くなり、今は週1回ヘルパーに来てもらい、入浴の介助をお願いする程度に回復しました。

母の代役、家事全般を今や私がしているので忙しい時期になると休む間もなく、イライラする回数も増えてきます(笑)。そんな私を学生の妹が何かと手伝ってくれるので、とても助かります。私たち姉妹を産んでくれた母に感謝です！

地域とのコミュニケーション

私の家は共選ではなく個選で出荷しているので生産者間のつながりが希薄になりがちです。若い切花後継者との研修会や先進地への視察などに参加し、大切な情報交換の場としています。

昨年の秋、“ちば花と緑の生産者紹介”にも参加しました。これは千葉県北東部の豊富な切花、鉢花、観葉、洋ラン、鉢植木の紹介展示や、管理方法などが見える商談会と産地見学会です。地元の生産者や全国から販



水揚げ中のガーベラ

売関係者がきます。恥ずかしい話ですが、普段、名刺交換などやったこともなく、大勢の前に立つこともありません。とても緊張しながらでしたが、多くの人の話を聞く事が出来ました。こういう花は出荷されても困るとか、品種の選定、規格、他の産地の話など、とても勉強になりました。その後、私の携帯も少しは鳴るようになりました。



箱詰めされた小菊

私の近くでは女性の農業後継者はいません。少し範囲を広げ、生産品目は異なりますが香取地域で野菜や養豚の女性後継者、農家に嫁いできたお嫁さんとの交流会や研修会にも参加しています。お互いの家を訪ねて“経営訪問”も行いました。他の農業や経営を知るとは勉強にもなり、私も頑張ろう！ という励みにもなります。また、同じ女性同士ということもあり、日頃の農家の暮らし方、子育てと仕事の両立、これからあんな風になりたい！ という夢など、とても話が盛り上がります。

今後の展望

まだ経営の主体は父です。父がいるという安心感や甘えもあり、経営についても大まかなことしかわかっていません。経費や数字に関して弱いので、これから少しずつ理解していく必要があります。その前にまず、ぼ

っかり空いてしまった栽培記録をまたつけていこうと思っています。その時頭に入っている、毎年記憶が更新されます。記録をつける、別科の実習で最初に習ったことです。

生産品の質の向上、土壌改良、労働力のバランス等、理想の生産体制ではありません。試作で栽培してみたい品目もあります。しかし日々の仕事、家事、介護に追われ、現状を維持するのが精一杯です。

現在、重油をはじめ肥料、ダンボール等生産に関わるものが全て2~3割値上がっています。これは花卉生産農家だけではありません。どの農家も苦しくなっています。正直、このまま経営していけるのか、花つくりをやめて品目を変えた方が良いのだろうか、悩むこともあります。しかし、圃場にハウスがあるかぎり、何かを栽培しないとイケません。

またこの先、私もパートナーをみつけ、いつの日か結婚、出産をする時が来ると思います。その時はまた状況に応じて栽培面積を減らすなど、無理のない経営をしていきたいと思っています。

まだまだ改善したいことはたくさんあり、決して余裕のある経営ではありません。けれども、人と人との繋がりを大切にしながら、世の中の流れや消費者のニーズに耳を傾け、切花生産に携わっていきたいです。

飯田久美子、現在27歳、仕事、家事、遊びに、頑張っています！ …恋愛も!?



ガーベラと筆者